

## 教育課題改善について

**(質問)** 学校規模適正化・適正配置について、平成30年3月に作成された学校規模適正化・適正配置に関する基本方針では、全市的な視点で検討を行っている。天栄中学校区での小規模校適正化において説明会、アンケートが実施された。予算や学校統合範囲、行政区との課題、交通手段など行政の考え方を示した

上で保護者、地域住民の声を聞き、調整を図り促進スケジュールを示してほしい。

**(答弁)** これまで学校運営協議会、地域、保護者説明会、アンケートを実施してきた。今後は意見や集計結果を踏まえながら適正化の具体的な方向性や手法について検討を進めていく。統廃合ありきでなく地域コミュニティの核としての学校の役割も踏まえ、子どもにとって望ましい教育環境を第一に考える。  
その他の質問 ○監査体制 ○健康福祉施策について再度鈴鹿市としての公式見解を

## 鈴鹿市の将来を見つめて

**(質問)** 公共施設マネジメントの個別施設計画のあり方について、市民の生活に大切な公共施設であるが、本市では令和2年度末までに公共施設マネジメントの個別施設計画を策定することとなっている。現在の策定状況と計画内容について。また、本市の現状にマッチした実現可能な計画とすべきであるが、こ

の点についてどのように考えているのか。

**(答弁)** 現在、主管課長で構成する会議、各施設担当課による作業・協議を行い計画の策定を進めている状況である。計画は、目標使用年数を原則80年と設定し対象施設を定め計画期間32年間で4年毎に計画を見直していくという内容。また実現可能な計画とするため財政状況、社会情勢を考えた上で、市民との情報共有などコミュニケーションを高め、公民連携の手法などによる複合化を計画しながら、持続可能な行政経営を進める。

## 鈴鹿市の農業について

**(質問)** ①現状と課題について、②もうかる農業経営について、③スマート農業について、④農地の有効活用について問う。

**(答弁)** ①本市の農家数は10年前と比較すると1,268戸減少している。農業従事者を増やすとともに安定収入を得られる施策を展開することが今後の課題。②大規模農家については

農地中間管理事業などの国の各種補助事業を活用する。中小規模農家に対しては地産地消の取り組みなどを推進し収入増につなげる。③本市の導入状況は大規模な担い手農家で自動走行トラクターによる耕起やドローンによる農薬散布の事例がある。今後さらに発展が予想される中、支援していく。④耕作放棄地など農地に戻せない場合、農業委員会が主体となる非農地判定と所有者が申請する非農地証明の方法があり、農用地の除外は農振法に則して適切な対応を行っていく。

## 学校環境の課題について

**(質問)** ①施設の多くは老朽化が進み、何年も壊れたままの状態や使用禁止が多く、メンテナンスが追い付いていない。維持修繕費を増額し、手入れの行き届いた施設にすべきである。②教職員が過密労働、長時間勤務で疲弊している。介助員、支援員、スクールカウンセラーなどの増員要望も多く、どのように

対応していくのか。教職員が雑務に追われることなく本来の業務に専念できるように、教育予算を手厚くするよう求める。

**(答弁)** ①施設の維持修繕については、財政負担の平準化を図りながら学校要望を参考に最小の経費で最大の効果を得るよう努める。②国・県に対し、教職員定数の改善、加配定数の増員を要望した。実態をしっかりと把握し、介助員、支援員などの配置を適切に行っていく。教育環境の充実は重要と認識しているが、全体のバランスも重要と考えている。